わがまち自慢 ～町長室から～

青森県大間町（おおまま町）
金澤 満春（かなざわ みつはる） 町長

大間漁師の〝心意気〟と〝生き様〟

大間町といえば「マグロ」。全国どこへ行っても、「大間から来ました」といえば、「マグロの町ですね」と言ってもらえるようになりました。

「大間マグロ」は津軽海峡の荒波を回遊する近海物なので、冷凍物と比べると冬場の脂の乗り、サイズが全然違います。

もうひとつの特徴は、大間の漁師のこだわりである「一本釣り」漁法にあります。秋刀魚、イカ、飛び魚などの仕掛けを、あたかも泳いでいるように流して釣るものです。一本釣りは、マグロ資源の枯渇が懸念される中でも、自然と共存できる漁法なのです。

一時、大間沖にマグロが回遊しなくなりました。その間もマグロ漁師は、大間を離れてマグロを釣り、技術を守ってきました。

昔は、船に記者やカメラを載せることは気が散るため、マグロ漁師は嫌がりました。しかし、NHK朝の連続ドラマ『私の青空』では、当時の組合長が快く引き受けてくれました。また、その頃から再び大間沖にマグロが回遊するようになり、「大間マグロ」のブランドが定着し始めました。

『天妃（てんぴ）様』つながりで台湾にPR

『天妃様行列』というイベントを海の日に行っています。

『天妃様』というのは中国の道教の『媽祖（まそ）』のことで、漁師が信仰する神様ですが、町内の稲荷神社に合祀されています。

大間町で『天妃様』がお祀りされているのは、昔、大間の沖船頭が海上での危難を助けられた神徳を崇（あが）めたことによります。

大間町の『天妃様』は、1696年、後にこの地の名主となる伊藤五左衛門により、茨城県の那珂湊からお迎えしたものといわれています。関東以北で『天妃様』をお祀りしているのは、は大間町だけです。

1996年の遷座300年祭で、台湾で一番大きな天妃廟の北港朝天宮から、媽祖の像、行列の道具などを購入しました。以降、海の日に『天妃様行列』を行うようになりました。

対岸の函館には、台湾から年間20万人以上訪れています。そこで昨年9月、本年1月に台湾を訪問し、大間のPRを行いました。フェリーを利用して大間に入り、下北で宿泊していただく。自然、マグロ、天妃様を観光として楽しんでいただきたいとPRしてきました。

『大函丸（だいかんまる）』で交流人口増加を目指す

町長就任後、一番大きな事業は、函館－大間航路の維持ならびに『大函丸』就航です。以前の運航会社は事業運営がうまくいっておらず、航路から撤退し、後を引き継いだ別の運航会社による函館－大間航路開設時には、大間町、青森県による事業支援をしました。また、老朽化したフェリーに替わる新造船導入など、いろいろありましたが、町が造り、船の管理や運航は指定管理に出すということになりました。

なぜフェリーにこだわったかというと、この航路がなくなれば、下北半島と北海道の往来が遠回りになるためです。地元住民が利用するだけなら客船でもよいが、交流人口を増やすことを考えると、車ごとの移動でなければ経済効果は得られません。これは、大間だけの問題ではなく、下北半島、道南、青森県全体の観光についても、大きなマイナス要因になります。

平成27年度末には、北海道新幹線開業になりますが、函館まで行った観光客に戻っていただくことも課題です。大間へのアクセスを問われた際、私は「函館空港を使ってください」と言っています。函館空港は便数も多く、乗り継ぎでフェリー出発までの待ち時間に函館観光もできるからです。

最後に、私が今、一番自慢できることは、町の活性化のために地元で頑張っているたくさんの人たちです。人間としては素朴ですが、おもてなしの心がきちんとあります。9月に入りますと、「日曜日はマグロだDAY」、10月には「大間超マグロ祭り」というイベントがあります。私たちは、イベントの時だけではなく、大間がいつも、マグロによる賑わいがある町にしていきたいとの思いでやっています。（談）

函館と大間を結ぶフェリー『大函丸』

毎年マグロ漁のシーズンが本格化する9～10月の日曜日に開催される「日曜日はマグロだDAY」。解体ライブショーと即売会で盛り上がる

毎年海の日に開催される～大漁祈願祭、天妃様行列

大間崎にある彫像